

市民フォト

ふくしま 夢つうしん

Fukushima yume-tsushin

福島市

No.27

2016年 10月号





目の前に広がる雄大なパノラマ 紅葉の「磐梯吾妻スカイライン」を駆ける

例年の見頃(紅葉): 9月下旬～10月中旬



磐梯吾妻スカイライン
吾妻山は噴火警戒レベル2が継続しているため、引き続き全ての区間(高湯ゲート～土湯ゲート)で、夜間(午後5時～翌午前7時)通行止め。通行可能時期: 4月上旬～11月中旬 ※11月中旬～翌年4月上旬は冬期閉鎖。
図 福島県東北建設事務所 吾妻土湯道路管理所 ☎0242-64-3478



写真: 湖見峠付近

冷え込むほどに色付きが進む空の道のなかでも、作家・井上靖が名付けたビュースポット「吾妻八景」は、シャッターチャンスの宝庫。天狗が舞い遊んだという伝説が残る「天狗の庭」付近は、クマザサの緑と白い木肌のダケカンバ、ナナカマドやカエデ類の黄色や赤のコントラストも見事な錦が山肌を覆います。「つばくろ谷」にかかる不動沢橋。周辺もお勧めです。谷底まで80メートルの溪谷全体が多彩な色に染まります。車を降りて歩くなら浄土平から「桶沼」を目指しましょう。一切経山の荒涼とした山肌を背景に赤や黄色、オレンジ、緑など、丹念に刺した分厚い刺しゅうのような紅葉と、美しい水鏡が待っています。

「吾妻八景」は、
シャッターチャンスの宝庫



最高標高1,622メートル。磐梯吾妻スカイラインは、福島市西の高湯温泉と土湯峠を結ぶ全長28.7キロメートルの山岳道路です。カーブを曲がる度に絶景が待つその道は「日本の道100選」に選ばれています。また、バイク雑誌読者が選ぶ名道で1位に輝いたこともあります。秋の休日、喧騒を離れて大自然に懐深く抱かれてみてはいかがでしょうか。

カーブを曲がる度に
絶景が待つ
空に続く道

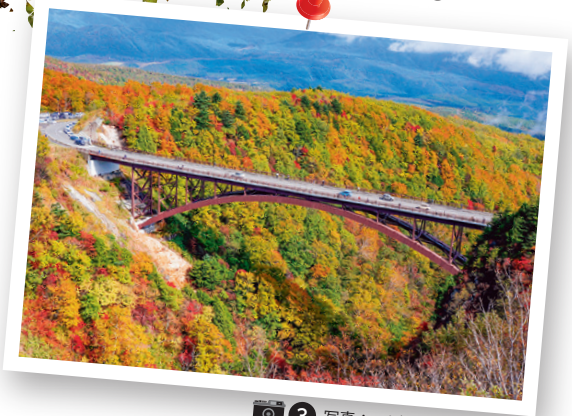


写真: つばくろ谷・不動沢橋

よみがえる
思い出

ふくしま古民家巡り

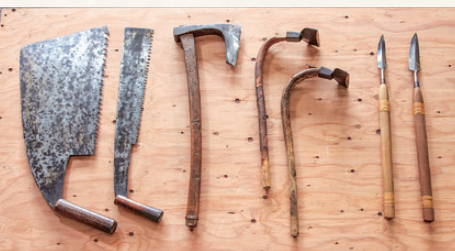
郷愁誘う旧家・古民家は心の原風景

長い年月を経て、もはや風景の一部として愛され続ける旧家・古民家は、私たちの心の原風景と言っても過言ではないでしょう。「用と美」を兼ね備え、独特の個性を放ちながら地元の名産や歴史や文化の記憶をとどめ伝える古い建築物は、先人たちの暮らしの知恵の宝庫です。長年にわたり重要文化財復原工事や旧家・古民家の再生工事を手掛けてきた大工職人・三浦藤夫さんを訪ね福島市内に残る旧家・古民家の魅力、保存の重要性などを伺いました。

槍鉋で材木の表面を仕上げる三浦さん

家づくりの究極は
数寄屋造り

16歳で大工の棟梁に弟子入りし、20代で独立した三浦藤夫さんは、大工歴50年の大ベテランです。一般住宅に加えて、旧家や古民家の修復なども手掛けるようになったいささつ



三浦藤夫さん所有の古い大工道具
左から鋸（のこぎり）2種類（縦引き・横引き）、大鉋（おおまさかり）、前鉋（まえちような）2本、槍鉋（やりがんな）2本

・縦引き、横引き、大鉋は、明治時代の道具。
・大鉋は、大きな梁の皮をはく時に使う。
・鉋は、木材を名栗（なぐり）※2の時に使う。
・槍鉋は、平安時代の道具。前鉋で荒削りした後の仕上げで使う。

建築技術は
仕事がないと残せない

を伺うと「良い建物を追及していくと数寄屋建築にたどりつきます。30代の頃、もっと高みを目指そうと全国から広く受講生を募った。日本建築セミナーに通うようになったことがきっかけです」と話してくださいました。講師陣は、日本建築界のトップクラスが勢ぞろい。文化庁が管理する文化財の解体修理を目の前で勉強することができたそうです。「約16年間通って本物を見ながら学んだことは私の財産です」

さまざまな登録文化財の復原・再生工事を手掛けてきた三浦さん。解体復原工事には、伝統工法のエキスが詰まっていると言います。「継ぎ手や仕口（しくち）など、確かな技術を持った職人の見事な仕事には毎回感動させられます。使われている木材も適材適所があつて山の峰に育つ松は粘りがあるから梁に、沢に育つ栗は湿気に強いから土台に、その中間に育つ

杉は柱に使うなど、実にうまくできています」

旧堀切邸にある十間蔵の解体修復もそうしたエキスにあふれていたそうです。「約270年前の土蔵の一階部分を解体して復原しました。柱の悪いところは根継ぎをし、全長14メートルの中梁を取り換え、土壁は全部塗り直しました。苦勞もありましたが全てが勉強でした。原型が残っていて、腕のいい職人がいたからこそできた工事でした」

三浦さんに専門家の立場から市内に残る旧家・古民家について、建物の特徴や見どころをお聞きしました。時を超え現存する歴史的建造物を通し、残すべき素晴らしい先人の知恵や技をぜひご覧ください。

職人の技を
ご覧ください



※1 仕口（しくち）…大工の技の一つ。部材を直角または、ある角度でつなぐ加工方法の総称
※2 名栗（なぐり）…鉋などで独特の削り痕を残す日本古来からの加工技術

福島市指定有形文化財
旧堀切邸 十間蔵

手仕事の魅力を余すところなく伝える母屋と十間蔵

1775（安永4）年に建立された蔵で、桁行（長さ）が十間（約18メートル）ある

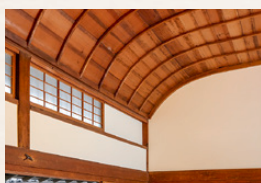


母屋（手前左）と十間蔵（右奥）

旧堀切邸は、江戸時代から続いた豪農・豪商の旧家です。明治14年に再建された母屋の屋根は、東京駅と同じ雄勝産のスレート瓦葺。組子欄間、ツルやカメの形をした釘隠し、奥の間の書院造り、次の間の地形に合わせてアールの天井など、見どころがたくさん。敷地内には、江戸時代後期に建てられた県内最古の十間蔵も残っています。主に米蔵、時代によっては酒蔵などにも使われていたようです。中でも、全長14メートルもある中梁は必見です。伝統工法の特徴でもある礎石の上に柱を立て



福島市飯坂町字東滝ノ町16 ☎024-542-8188
開館時間／午前9時～午後9時
見学科／無料 休館日／無休（臨時休館あり）



母屋のアール（曲面）の天井



ケヤキの彫刻欄間がある書院

る。石場建てや、竹木舞を組み、藁（わら）サを混ぜて寝かせた粘土を幾重にも塗り重ねた厚さ25センチの土壁も、熟練の技で造り上げた仕事の魅力を余すところなく伝えています。



前鉋で仕上げた全長14メートルの中梁

※3 釘隠し…長押（ながし）などに打った釘の頭を隠すために用いる建築装飾金具の一つ



国登録有形文化財

瀬上嶋貫本家住宅

家族を思うあるじの心と職人の粋に触れる

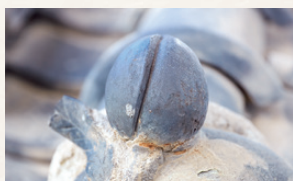
階段を上ると広がる大広間は、厳選した銘木をぜいたくに使った歴史と格式を感じる造り



旧奥州街道沿いに建つ嶋貫本家



細部にもこだわったレトロな照明



家族の健康を思い薬医門に載せた「桃」。桃は中国の「西王母」（女神）が持つ不老長寿の実

嶋貫本家は、上杉藩の家臣として福島に移り住んだと伝えられています。先祖は、江戸時代奥州街道の宿場町としてにぎわった瀬上で金融業を営んでいました。商家造りの母屋（明治32年起工・同40年完成）と、お客様をもてなす部屋として建て増したという数寄屋造りの離れ（大正2年増築）は、どちらも総二階建てで秋田杉や黒柿などの銘木が使われています。40帖の大広間、格式高い格天井、美しい箴欄間、しつこいのレリーフで仕上げた洋間の天井飾りなど、高い技術とセンスに脱帽です。慶弔の象徴「松竹梅」や不老長寿の実「桃」、火伏祈念の「猪の目（懸魚）」など、家族を思うあるじと職人の粋な遊び心を伺い知れる箇所が随所にちりばめられています。ぜひご自分の目で見つけてください。



福島市瀬上町字本町90-2
【完全予約制】
☎090-2273-5001（受付時間 午前10時～午後4時）
見学科／建物維持協力金 1人500円

旧日本銀行福島支店長役宅

御倉邸



福島市御倉町1番78号 ☎024-522-2390
開館時間／午前10時～午後6時
見学科／無料 休館日／毎週火曜日、年末年始

京都の名所 鴨川と東山に見立てた雅な風情に酔う

昭和2年の建築で、戦時中は日本銀行福島支店の寄宿舎として使われ、戦後は進駐軍の接収も経験しました。外観は、寄棟の赤瓦。杉板の下見張り。部屋は和室8、洋間3、計11あり、使われている木材は全て建築当時のものです。例えば、二間続きの和室の鴨居や長押、柱は青森ヒバです。茶室は、杉の一枚板を使った鏡天井。横組引き分け猫間障子を開けて眺める庭も趣があります。阿武隈川と弁天山を京都の鴨川と東山に見立てたという雅な風情にしばし酔いしれてはいかがでしょう。



二間続きの和室から望む日本庭園が原風景を感じさせる



目の太い畳「龍餐表」に「紋縁」を付け座敷に風格を与えている



貴賓を迎える式台玄関



式台玄関の柱に施された「根継ぎ」に注目。「四方鎌」という見事な仕事を見ることができます

旧佐久間邸



福島市佐倉下字加藤7-6 ☎024-546-3948
開館時間／午前9時～午後5時
見学科／無料
休館日／無休（施設点検などのため臨時休館の場合あり）

15代目が庄屋屋敷として江戸中期に建築したと考えられています。長屋門（正門）の手前にめぐらせた堀は、大正時代の築造で木の根1本も通さない「亀甲石積」です。旧佐久間邸の特徴は、玄関で、家人用の玄関のほかに、貴賓を迎える「式台玄関」があります。また、囲炉裏の間と座敷と床の高さも異なり、家族間でも優位があったことを物語っています。三間続きの和室、黒柿の障子戸、大黒柱、帯戸、土間など、建物内部は懐かしさと温もりにあふれ郷愁を誘います。



旧広瀬座では毎年、芝居小屋としての公演事業を行っています



手押しで動く回り舞台

国指定重要文化財

旧広瀬座



福島市上名倉字大石前地内 ☎024-593-5249
開園時間／午前9時～午後4時30分
入園料／無料
休園日／毎週火曜日、年末年始
（火曜日が祝祭日の場合はその翌平日が休園日）

役者と観客の距離が近い芝居小屋

国指定重要文化財の芝居小屋は、全国に6棟しかない貴重な建造物です。明治20年（推定）に梁川村（現在の伊達市）で有志によって建てられ、平成6年に移築・復原されました。舞台中央は、回り舞台で床下に奈落があり花道、ぶどう棚、ちよぼ席など当時の芝居小屋として必要なものを備えています。回り舞台は、手押し式で大人4人くらいで軽やかに回ります。舞台の裏手にある楽屋の板壁には、当時の役者たちのサインや落書きが多数残っています。ほかにも民家園には、年月をしのばせる建物が数多く移築してあります。

※1 式台玄関…長式台とは玄関先に設けた板敷きの部分。武家屋敷を訪問した客人が地面に下りることなく籠に乗り入れできる
※2 花道…舞台の下手から様敷席の前を通り鳥屋に通じる通路 ※3 ぶどう棚…竹で編んだ格子状の天井。桜吹雪や紙吹雪を散らすことができる。
※4 ちよぼ席…義太夫語りの居るところ



ふくしまのまちづくりを応援!

元気ふくしま ふるさと 寄附金

ふるさと納税



返礼品は
福島市の魅力たっぷり
100品目以上!

福島市のふるさと納税



福島市は、ふるさと納税を
「元気ふくしま・ふるさと寄附金」として、
8つの応援メニューでふるさとづくりに活用しています。
1回につき1万円以上寄附していただいた、
福島市外に住民登録がある方を対象に、
感謝の気持ちとして返礼品をお贈りします。
寄附金額に応じて付与されたポイントを使って、
専用カタログや専用ポータルサイトからお好きな返礼品が選べます!
詳しくは、福島市ホームページをご覧ください
下記までお問い合わせください

問 い
合 わ せ

寄附金・控除に関すること

福島市 市民税課

☎024-525-3713(直通) FAX) 024-528-2480

返礼品に関すること

福島市 観光コンベンション推進室

☎024-525-3722(直通) FAX) 024-535-1401

詳しくはホームページをご覧ください

福島市ホームページ

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/soshiki/97/suishin16082901.html/>



CONTENTS

2 福島観光
「目の前に広がる
雄大なパノラマ
紅葉の磐梯吾妻
スカイラインを駆ける」

4 特集
「ふくしま古民家巡り」
●「旧堀切邸」「瀬上嶋貫本家」
「御倉邸」「旧佐久間邸」
「福島市家園」

8 インフォメーション
●元気ふくしまふるさと寄附金

表紙紹介

鎌沼へ向う登山道から望む
吾妻小富士



表紙説明:

秋真っ盛りの鎌沼へ向かう登山道では、一面に広がる色とりどりの紅葉が登山者の目を楽しませてくれます。登ってきた道を振り返ると、浄土平のシンボルである吾妻小富士や福島盆地の展望が待っています。

市民フォト・ふくしま夢通信

平成28年10月1日発行 No.27 2016年10月号

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>

編 集
発 行

福島市役所 広報課

〒960-8601 福島市五老内町3-1

☎024-525-3710 FAX) 024-536-9828

E-mail: kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

ホームページもご覧ください

福島市

検 索

クリップ

YouTube
(ユーチューブ)

チャンネル → ふくしまチャンネル

twitter
(ツイッター)

アカウント → fukushimacity

f Facebook
(フェイスブック)

アカウント → 福島市